

全国漢詩の祭典 (宮崎大会) 入賞作品

文部科学大臣賞

神奈川県横浜市

城田

六郎

酒匂川畔村酒

酒匂川の畔の村酒

嶽麓發源清冽川

嶽麓に源を發す 清冽の川

麴塵粳稻僻村傳

麴塵 粳稻 僻村に伝ふ

綠醅初熟醍醐味

綠醅初めて熟し 醍醐の味

一斗十千何惜錢

一斗十千 何ぞ錢を惜しまんや

〔自注〕

酒匂川は、富士山の麓に源を發し、清らかで冷たい川である。麴のかびとうるちの稲は、ひなびた村に伝わっている。緑色のもろみ酒は、ちょうど熟したばかりで最上の味がする。一斗一万錢もするが、どうして錢をおしむことがあるうか。

国民文化祭実行委員会会長賞

岐阜県可児市

大川

昌彦

初秋即事

初秋即事

碧天如水月如眉

碧天水の如く

月眉の如し

秋到郊墟蟲語滋

秋は郊墟に到りて虫語滋し

半夜茅齋燈未盡

半夜の茅齋 燈未だ尽きず

桂花香裏獨題詩

桂花香裏 独り詩を題す

〔自注〕

空は晴れ渡り、静かな水面のように冷やややかである。そして、そこには眉のような三日月が浮かんでいる。秋の気配を感じる涼しい季節になった。庭では、盛んに虫の鳴き声が聞こえる。夜半、粗末な茅葺きの書齋は、まだ灯が尽きない。独り詩を題していると、何処からか桂花の良い香りが、部屋の中まで漂ってきた。

宮崎県知事賞

香川県観音寺市

翠泊

田片

博伸

高千穂峽

高千穂峽

危巖磊磊翠微間

危巖磊磊たる翠微の間

一棹荷雲于往還

一棹雲を荷いて于に往還す

雷鼓落溪懸練帛

雷鼓溪に落ちて練帛を懸け

飛湍千仞截青山

飛湍千仞青山を截つ

「自注」

みどりの山気に包まれる中、岩が重なり、壁のように険しくそばだつ崖を映す水面。浮遊する白雲の上を、漕ぎ出した一艘の舟が来往する。すわ落雷か。山峽をつんざく轟音。まるで真っ白な練り絹を懸けたかのような滝、ほとぼしり落ちる一道の流れが、千仞の高みから青山をばっさりと截ち分かつ。

第三十五回国文化祭宮崎県実行委員会

第二十回全国障害者芸術・文化祭実行委員会会長賞

愛知県名古屋市

珠光 高取 真里

探花

探花

深溪雨霽鳥聲度

深溪雨霽れて

鳥声度り

嶮路霧開花氣通

嶮路霧開いて

花氣通ず

探得姚黄玄圃裏

探し得たり

姚黄玄圃の裏

玉容綽約笑春風

玉容綽約として

春風に笑む

「自注」

古代中国における長く辛い勉学の末、優秀な成績で科挙に合格した者が得られた「探花」という称号の謂れをヒントに、探し得た希望の光は仙界に玉のように美しく微笑む牡丹の花であった。嘗て若者が花を探して名園を巡る幻想的な世界に心を遊ばせてみました。